

地域連携
だより

しんみ

vol. 10
2025年4月[所在地] 〒235-0016横浜市磯子区磯子
2-20-45[TEL] 045-752-1212 (代表)
[URL] <http://www.isogohp.jp>

整形外科より

整形外科部長 武村憲治



平素よりお世話になっております。

磯子中央病院整形外科を紹介いたします。当科は小島病院長を筆頭に5名の医師で、磯子区二次救急病院の整形外科として、長年多数の救急患者、一般患者を診療してきました。また、磯子区内外の多くの整形外科医院と長年の連携があり、多数の紹介患者を受けて診療しています。そして横浜市大整形外科医局の協力病院でもあります。当科は整形外科全般を診療していますが、その中でも脊椎と外傷の患者が多いです。脊椎は診断と治療のための神経根ブロックを外来で多数行っていることが特徴のひとつです。

鎮痛薬が効かない頸椎、腰椎起因の上肢や下肢などの強い痛みを、神経根ブロックでとることが出来る場合が多数あります。また、それまで他院で肩や肘、股関節や膝の疾患として治療を受けていて改善がなかった方に、神経根ブロックを行って頸椎や腰椎の疾患と診断し、治療して治癒する場合があります。脊椎は手術件数も多く、年間300件以上行っています。外傷は、骨粗鬆症の大腿骨近位、橈骨遠位などの骨折をはじめ、身体各部位の様々な治療を行っています。高齢者の大腿骨近位部骨折をはじめ、多くの外傷の手術は入院後なるべく早期に行っています。この4月から新たに関節疾患を専門とする医師が着任し、当科の診療内容の幅がさらに広がると思います。今後も磯子中央病院整形外科を宜しくお願いいたします。

活動報告 「横浜市南部学術サークル 症例検討発表会」

2024年12月理学療法士2名が横浜市大病院総合医療センターでの症例検討発表会に参加しました



PT佐藤涼平

『片側の初期変形性股関節症を有し、対側の股関節人工骨頭置換術を呈した症例』
今回、このような発表の機会を得たことで患肢だけでなく、

対側下肢へのアプローチの重要性への理解を深めることが出来ました。発表をするにあたって、情報収集や整理、限られた時間内で要点を絞り込み、分かりやすく伝える構成を考えることが難しかったです。また、内容だけでなく声のトーンやスピードに変化を加えるだけでも相手に伝わりやすくなるという経験を得ることが出来ました。

『帯状疱疹性脊髄炎により対麻痺を呈した症例の治療経験』

今回、このような症例発表をさせて頂き、改めて新しい介入方法や患者様への接し方につ

いて学ばせて頂きました。今回の症例は、私の少ない経験の中で大変珍しい症例だった事もあり、日々先輩方にアドバイスを貰いながら介入することで、私自信の研鑽に繋がる良い経験となりました。発表に携わってくださった方々に感謝し、今後も日々自己研鑽しより良いリハビリに繋げたいと考えています。



PT坂井大志

磯子中央病院検査室のご紹介

現在、女性の臨床検査技師が6名在籍しております。主に検体検査・生理検査に分かれて検査を行っております。生化学分析装置が2台あるため、緊急検査の場合、40分程で結果報告ができるようになりました。ただ、結果を送るだけでなく、パニック値等の結果が出た場合は、すぐに担当医に報告できる体制が整っております。また、院内では血液型・交差適合試験（クロスマッチ）も行っております。緊急時の場合は、赤血球製剤が届いてから、1時間程で輸血が行えるよう迅速に検査を行います。病院に来られる患者様は、不安を抱えていることが多く、私たち臨床検査技師は、患者様の気持ちになって、対応することを心がけて検査しております。検査のことで、不安なこと・疑問に思ったことなどありましたら、お気軽にお問い合わせください。



2024年度導入の検査・機器について

①一週間ホルター心電図

今回導入しましたホルター心電図は一週間の検査となり、発生頻度の低い不整脈の検出に有用です。院内で機器を装着し、郵送で機器の返送ができるため通院回数を減らすことができます。またシャワー浴にも対応しているので日常生活への影響を軽減できます。皮膚の弱い患者様では長期間装着が困難となることもあります。



③CPAP遠隔モニタリング

CPAP遠隔モニタリングではCPAP機器に内蔵されているモデムを利用して日々の使用状況をcloudへ転送し、そこからデータが病院に転送されます。AHI、使用率、使用時間、マスクの漏れなどに異常ないか等のメディカルチェックを適宜行うのに対し、患者様の来院は3ヶ月に1度となり負担を軽減できます。

②在宅PSG検査

PSG検査（Polysomnography）は睡眠時無呼吸症候群（SAS）の精密検査です。今まで入院で行われていた検査が在宅でもできるようになりました。PSG検査では脳波・眼球運動、呼吸、呼吸努力、いびき、酸素飽和度、脈拍数、オトガイの筋電、体位、体動の10項目の測定を行います。機器を使用する際は、就寝前にご自身で機器を装着します。在宅PSGの方が入院での検査に比べ費用を抑えることができます。

④尿中レジオネラ迅速検査

レジオネラ症はレジオネラ・ニューモフィラ血清型1による感染症が最も多く、これをターゲットにしたものが診断補助となる尿中レジオネラ迅速検査です。イムノクロマト法を原理として、尿中レジオネラ・ニューモフィラ血清型1抗原の有無を15分で判定します。結果解釈の注意点として、尿中抗原は感染後3日目以降から検出感度に達するとされていますが、症例によって異なります。また、数日から数週間に渡って尿中へ抗原が排出される場合があり、既往歴や臨床症状を十分に考慮する必要があります。本検査で陰性と判定されても、尿中抗原量が感度以下である可能性、血清型1ではないレジオネラ症の可能性等があり、レジオネラ感染を完全に否定するものではありません。